

伏木小学校の歴史と伝統文化を学ぶ

1 はじめに

本校は、明治6年2月、伏木本町の藤井能三氏の持ち家を借りて公立伏木小学校が創立され、令和5年2月16日に、創校150周年記念式を行う学校である。

校区は、豊かな自然と多くの文化財に恵まれ、古くは港町として発達してきた商工業地域である。富山県下で最初に創設された公立小学校として誇りと伝統があり、学校に対する地域住民の期待と関心は大変大きい。育友会（PTA）や地域安全パトロール隊をはじめ地域ボランティアは、教育活動に大変協力的で児童との関わりも深い。

また、昭和三十七年から整備されてきた「ふるさと博物館①～④」には、地域から収集された貴重な資料が展示されている。現在は、テーマ別に四部屋あり、児童は学習のねらいに応じて活用している。校舎内でも地域学習が行える。

2 活動の実際

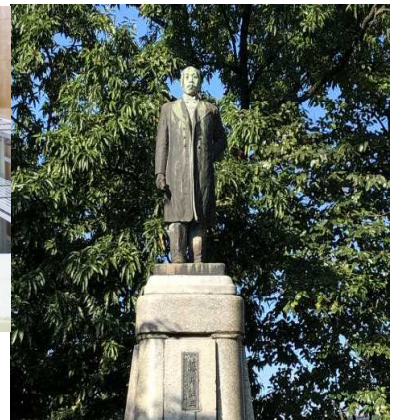
○ 能三祭・藤井能三顕彰祭

藤井能三は、伏木小学校創設の人であり、伏木港開港の恩人でもある。また、広く富山の発展に尽くした人物でもある。藤井能三翁の遺徳を偲び、例年4月20日（能三の命日）、グラウンドに建つ能三像前に集まる。近年は、高岡市教育委員会の藤井能三顕彰祭と兼ねて、体育館で行っている。

今年度も、児童代表が能三像に献花し、歌「運動場に能三さん」を全員で歌った。



能三像に献花する児童



藤井能三像

○地域の歴史学習

伏木小学校の校区には、勝興寺や国分寺等の史跡、北前船資料館や万葉歴史館等の施設が多くある。これら地域の文化的遺産を生かし、3学年の総合的な学習の時間では、「伏木の町調査隊」として、地域の人や歴史、文化に働きかける学習に取り組んできた。

歴史ある地域の自慢を探し、知っていることを共有する中で、子供たちは「勝興寺



勝興寺の歴史と七不思議の説明を受ける児童

に幕が張ってあって、たくさん人が集まっていたよ。何があったのかな。」「北前船資料館の前をよく通るけれど、中はどうなっているのか詳しく知りたいな。」「気象資料館に、能三さんの銅像があるのを見たよ。」と話し、「もっと知りたい」という思いを強くした。

また、2年生の時に、3年生の発表を聞いており、「去年聞いた、勝興寺の七不思議について調べたい。」「気象資料館に天気を表す旗があるって聞いたよ。見てみたい。」など、「見たい」「調べたい」という気持ちも大きかった。

そこで、見学の機会を設け、子供たちの疑問や関心を伝えたところ、子供たちを温かく迎えてくださり、詳しく話してくださった。また、展示物を見せていただいたり部屋に入れていただいたりと、さまざまな体験をすることで、「知りたい」と思っていたことを身近なものとして捉え、より詳しく調べようという意欲につながった。

【子供の感想より】

- ・気象資料館でいろいろな測定器を見て、とても気になった。
- ・北前船資料館の中を案内していただき、たくさんの部屋に入ることができてうれしかった。
- ・昔は船を見張るために、望楼を使っていたことを教えてもらった。
- ・小さな仏壇があり、高波や雷などから守ってもらえるように船の中にあったことを聞いた。それを今まで大切にしてきたことが分かった。
- ・にしんがまがとても大きくて重いことが分かった。
- ・望楼は眺めがよく、みんなで「勝興寺や「工場」や「郵便局」、「家」を見付けた。



伏木気象資料館にて



北前船資料で説明を受け
鯨釜を見学する児童



万葉歴史館で大伴家持について学習中

見学後は、調べたことや感想を報告文としてまとめ、自分の思いを見つめ直した。また、一人一人の課題に沿って「勝興寺の歴史と大修理」「勝興寺の七不思議」「北前船について」「北前船資料館について」「気象資料館の役割について」「万葉歴史館で体験できること」といったグループに分かれ意見交換をすることで、新たな疑問が湧き、さらに調べ学習を進めていくきっかけとなった。それを、2年生や保護者に向け発表することで、これまでの学習を振り返り、地域の文化的遺産をより身近に感じることができたようだ。

○遠泳大会

伏木小学校の最大の行事である「遠泳大会」は地域と深くつながっている。

昭和前期、全校児童で行われていた国分浜での臨海学校最終日に、上級生の泳力が高い者が、力試しに沖合の男岩往復を行っていたものがはじまりとされる。学校沿革史によると、昭和4年7月に「水泳大会開催」の記述が始めて残っている。

昭和29年の記録によると、「臨海教育実施二十日、五、六年希望者五二名による二千五百mの遠泳を実施する」とある。現在の学年・泳ぐ距離とも一致する。

昭和62年度から「伏木少年遠泳会」が発足した。

令和3年度。学校の水泳学習が始まると、5、6年生は、基本の伏し浮きや平泳ぎの習得を中心に水泳学習を進めた。中学年の頃から、遠泳大会を意識した指導を開始している。平泳ぎだけでなく、巻き足を使った「立ち泳ぎ」や「踏み足」での泳ぎなども練習した。

練習には、NPO法人、高岡市水泳協会の指導員による指導が行われた。

伏木少年遠泳会の活動は、当日を含め5日間行われた。3日間は学校プールでの練習。時間は午後4時30分～6時まで。基本の伏し浮きや平泳ぎ、隊列を揃えて同じスピードで泳ぐ練習などを行った。3日目は、学校での「見極め」を行い、4日目の海での「見極め」の参加者を決めた。

海での「見極め」は、隊列を組んで、30～40分程度足がつかないテトラポットの内側を泳いだ。例年、プールでは泳げても、海では怖くて泳げなくなる子供が数名いる。大人の伴泳者が体を張って児童の安全を守った。子供も大人も真剣に「見極め」に参加した。この日で、大会への出場者が決まった。

遠泳大会当日は、伏木ライオンズクラブ、伏木海上保安庁、伏木消防署、伏木幹部交番、伏木港湾事務所等が、全面的に協力して実施された。今年度もコロナ禍でありながらも、児童の参加者数以上の大人の伴泳者、7艘の伴走船、消防署のゴムボートや保安庁の船などが集結し、児童の安全管理に努めた。特に、児童と一緒に泳ぐ伴泳者は、地域の育友会、OB、水泳協会関係者、学校教員、地域の青年団等、遠泳大会



学校プールでの練習風景

を愛する方が集っていた。

朝8時に集合し、育友会が日よけのテントや横断幕、本部・救護テントなどを設営し、児童・伴泳者・来賓の受付等を担った。

8時30分、開会式。地域の県議会議員、市議会議員を始め地元の名士や保護者、地元の方に、選手宣誓を行い、海へ出発した。男岩をぐるっと回るコースは2500メートルあり、先頭で約50分、遅い者は、1時間30分以上かけて泳ぎ切った。最後の者が泳ぎ切ると浜辺には、大きな拍手と歓声（今年は声は出さなかったが）がわき上がった。

学校と育友会だけでは継続が難しい。地域や伴泳者のボランティアの積極的な協力が不可欠である。水泳の技能面でも高岡市水泳協会の指導・協力が必要である。

大きな転機は、昭和62年に、学校行事から校長を会長とする「伏木少年遠泳会」の行事となったことである。参加希望児童は、「伏木少年遠泳会」に入会し、伏木水泳連盟や高岡市水泳協会の指導を受けるようになった。遠泳には、近代泳法の平泳ぎと古式泳法の技術の両方が必要であり、専門的な指導が必要である。よって、学校の教員だけでは、指導が難しい。また、安全面での心配も絶えず、小学校だけでは、対応が難しい。今考えると、伏木遠泳クラブの発足が、現在も遠泳大会が伝承されている大きな要因だと思われる。

「遠泳大会」は、行事自体に大きな魅力がある。まず、子供たちが、親や先輩が泳いできた遠泳大会に自分も参加することに誇りをもっている。意欲的である。

また、伴走船を出してくださる地域の住民はもとより、伏木以外からも、伴泳者が参加するが、リピーターがとても多い。「児童の懸命な姿に感動する」「一緒に泳ぎ切った児童の笑顔が見たい」等、子供たちと泳ぐ緊張感に充実感を得たり、「地域や学校関係者との打ち上げで語り合うことが楽しみ」（今年度は、中止）との声が聞こえてくる。歴代校長も、長年この遠泳大会には、全力で取り組んできた。保護者や地域の熱い思いを受けた児童と教職員の熱意が合わさった結果であると考えます。



出発前あいさつ



男岩目指して



泳ぎ切った！完泳証と共に

○創校記念式

～能「高砂」、舞「かたかごの花」～

「高砂」の上演は、明治後期、敬老会の創設とともに始まり、現在の形になったのは昭和35年度の創校記念式からである。紋付きに袴をはき水衣をはおり、扇を腰に頭に頭布をかぶって舞われる「高砂」は、まさに日本古典芸能の粋といえる。

練習、上演に際しては、「伏木宝生会」の方々の献身的な協力がある。今年度も、1月に入るとすぐに、講師の先生方による練習が始まった。練習は創校記念式の2月16日まで続く。講師の先生方から5年生児童一人一人が、座り方から舞い方、謡い方等、丁寧に指導を受けた。一つ一つの所作のみならず、演目の内容についても学ぶことができた。

舞「かたかごの花」は、5年児童から4年児童へ受け継がれてきた踊りであるが、近年は、地域の踊りの師範が、振り付けの改善や指導に携わっている。今年度も師範が来校し、手の形や足の運び方、視線の向き等、一人一人が直接、舞を学んだ。上級生から学んだ後、師範から学ぶという流れができています。

3 まとめ

伏木地区は、春季祭礼「伏木けんか山祭」を盛大に行う。全国の有名な祭礼と同様、男達は一年間をかけて祭りの準備をする。「けんか山」の運営では、「年配者を大切にする」ことが印象的である。一見、強面の各町の総代や幹部も、年長者を最大限に敬う。ひいては、伏木の歴史・伝統を大切に守る心が、保護者にも児童にもある。

そして伏木小学校は、その伏木地域と共に歩む姿勢を歴代校長が貫き、地域の声を大切に学校を運営してきている。地域の声を全て取り入れることは難しいが、互いの考えを尊重し、前に進めてきた。また、伏木の伝統を守り、共に歩むためには、学校も教職員が一丸となって、地域との関わりに前向きに取り組むことが大切である。

そして、伏木地域で育つ子供たちには、ふるさとの文化や自然を愛し、積極的に未来を切り拓く子供に育ってほしいと願う。



能「高砂」



児童代表のお礼の言葉



舞「かたかごの花」